



一人前の遍路姿で、徒歩遍路体験学習に出発する明德短大生

短大生が歩き遍路

明德、教員と体験学習

明德短期大（今治市、星島一夫学長）の学生と教員十五人が、八月七日、歩き遍路体験学習をした。白装束に金剛杖、菅笠姿の一行は、午前九時学園を出発。五十四番延命寺でお茶の接待を受けた後、遍路道をたどった。五十五番南光坊への途中では、大学手配の給水車が水分補給した。立秋とはいえ、気温は三十度を大きく超え、学生たちの渴ききつたのどをうるおした。五十六番泰山寺が近くなると、隊列が乱れ始めた。五十七番栄福寺をへて、午後一時二十分五十八番仙遊寺に着、休憩の後、小山田住職の講話に耳を傾けた。一行には中国からの留学生三人が参加。西安市の韓君さんは、空海ゆかりの青龍寺近くの出身。仏教に強い関心を持ち、道中でも恵果阿闍梨と空海、毛沢東時代の仏教の話話を披露していた。学生たちは「楽しかった」「自信がついた」と評価。星島学長も「来年度から、歩き遍路学習を正式科目に編入したい」と話していた。